

## 「神殿から商人たちを追い出す」

2022年04月13日

それから、一行はエルサレムに来た。イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いしていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを覆された。また、境内を通過して物を運ぶこともお許しにならなかった。そして、人々に教えて言われた。「こう書いてあるではないか、『私の家は、すべての民の／祈りの家と呼ばれる。』ところが、あなたがたは／それを強盗の巣にしてしまった。」(マルコ福音書 11章 15節～17節)

主イエスの一行はエルサレムに来て、神殿の境内に入った。エルサレム神殿はヘロデ大王が建てた荘厳な神殿で、ローマに支配されたユダヤ人はローマ人も驚愕させる大神殿を誇りとし、彼らの魂の寄辺にしていた。この神殿は職業、性別、民族を差別する構造であった。一番奥まったところが契約の箱が置かれた至聖所で、年に一度大祭司が入って、罪を執り成す儀式を行った。その前は「祭司の庭」で祭司がそこまで入ることができた。その外側が「イスラエル人の庭」でイスラエルの成人男子が入ることができた。その外側が「婦人の庭」で、イスラエルの婦人が入ることができた。一番外側が「異邦人の庭」でユダヤ教に改宗した異邦人が入ることができた。この異邦人の庭に商売をする商人たちがいた。土産屋ではなく、献げ物にする鳩や羊を売る店と、両替をする店があった。両替は、ディアスポラのユダヤ人が世界各地の貨幣をもって巡礼に来るが、神殿への献金はユダヤの貨幣でなければならず、他国の貨幣をユダヤの貨幣に両替をするための店である。主イエスは、ここで、売り買いしていた人々を追い出し、両替人の台や鳩を売る人の腰掛けを覆された。神殿の境内で、暴力事件を起こされた訳である。

この売り買いする所は「アンナス広場」と言われていた。アンナス広場の鳩や羊は、神殿の外で買う15倍もの価格が付けられ、献げ物は清めた「アンナス広場」の物でなければならないとされていた。両替も、莫大な両替手数料を取っていた。法外な金額を支払わなければならない広場であった。大祭司は元来、亡くなるまで務める終身制であったが、主イエスの時代はローマが気に入った大祭司を適宜に任命していた。当時の大祭司はカイヤファであったが、岳父に当たる「アンナス」が実権を握っていた。権力を維持するためには財力が必要である。アンナス広場での権益が彼を支える財力であった。民衆が誇りと憧れをもって神殿に来て見ると、商売人たちによって理不尽に搾取され、不満は鬱積するけれども、神殿の権力に逆らうことができない。主イエスは商売する人々を追い出し、台や腰掛けをひっくり返し、「私の家は、すべての民の／祈りの家と呼ばれる。ところが、あなたがたは／それを強盗の巣にしてしまった」と言われた。神の名による祈りの神殿を不正な利益を生み出す強盗の巣にしてしまったと、怒りをぶっつけたのである。このことでエルサレム神殿の腐敗が正される訳ではないが、教会では「宮清め」と言っている。

アンナス広場は神殿当局の支配する、言わば、神聖な場所にある。そこで、一介のガラヤのラビが抗議の暴力事件を起こした。神殿の権威は丸つぶれで、断じて許すことはできない。主イエスは、律法に管理された体制を覆すような振舞いをするので、以前から殺害の危機に晒されていた。しかし、民衆は皆、主イエスの言葉の力と公正さに心を打たれていた。民衆が支持する主イエスに当局は手出しすることができなかった。祭司長たちや律法学者たちは、その暴力事件、「宮清め」を決定的な事件として受け止め、主イエス殺害を本格的に謀った。